

みどりの風

第2号

発行日 2007年 1月31日



医療法人社団 倫生会

みどり病院

編集発行：みどり病院 広報誌作成委員会
所在地：〒651-2133 神戸市西区枝吉1-16
TEL (078) 928-1700・FAX (078) 928-1772

みどり病院の地域医療は小児救急で幕を開けることになった。80年5月に19床の内科の診療所を開設したが、3ヶ月ほどたった日曜日、S看護師と二人で76名の急患を診た。二、三を除いてほとんどが生後三週間から小学生までの小児で、点滴用のベッドが不足したため職員更衣(控)室の畳の間を夜遅くまで使用した。当初、夜間・休日に関係なくいかなる救急疾患も断らないというのがウリであったから、ほとんど毎夜例外なく複数の急患に起こされた。開院時、車で一時間ほどの自宅から通勤していたが、もの一ヶ月ほどもたたないうちに医局で寝泊りするようになった。眠れない日が連続して健康管理に不安を覚えるあまり、嫌がる家族の尻を叩いて隣のマンションに引っ越してきた。

ではまさに毎日ヒヤリハットの連続だった。1歳児の腸重積の整備をしようとした際、バリウム注入のチューブサイズが合わないのが急遽、近隣の市民病院の小児科に電話で借用を申し入れた。驚いたことに当時の院長で小児科学会の重鎮であった1先生が自ら電話口に出てくれて、「そんな面倒臭いことするより、その子どもさんをこちらに送ってくれば……」と笑いながら言うてくださった。1先生の返書に「小児救急は地域医療の重荷ですが、先生の日々のご苦労にいつも感謝しています」とあり、連日の疲労に萎える気持ちを奮い立たせたことが懐かしい。それほど情熱を燃やし、使命感に支えられた小児科救急だが、やがて噴出する同僚医師の強い反対論に後押しされるように、小児科から完全に撤退することにした。その分野の医療を放棄するについては、小児救急の置かれた劣悪な条件を一切斟酌することなく、とにかく完璧な医療を求める世間を前に、自己犠牲といった精神主義ではどうしても乗り切れないやりきれなさを感じたからである。それから十数年。医師たちが燃え尽き症候群というごく小児救急の現場から次々と離脱、産婦人科の帰趨とあいまって、地域医療自体が危存存亡の危機にさらされている。

さて、最近の医療現場(特に病院)では人工呼吸器、I・V日など医療機器がとみに高度化、複雑化して、医師、看護師の仕事量は飛躍的に増大している。また医療内容の細分化に伴い手続き、チェック機能ばかりがやたらと煩瑣になり、さらに医療費削減政策による入院日数短縮の徹底で、日々の業務密度が極度に濃厚になっている。しかし、そうした猛烈な労働環境にもかかわらず、病院の深夜病棟に勤務する看護師数は平均二名と十年一日のごとき貧弱さである。そしていったん事故が発生すれば、医療者の置かれた過酷な状況を知ってか知らずか、あたかも医療過誤の技術的・倫理的両面の責任が医師にあると言わんばかりに、世間の糾弾は熾烈を極める。当該の医師は警察権力によって逮捕という憂き目に遭遇するわけだが、医療行為の帰結に対して破廉恥罪同様の断罪を科しているのは先進国水準で日本社会だけではなからうか。昨年九月、私は、衆議院会館で行われた国会議員の勉強会で、いま日本の医療全般が直面している以上のような構造的危機の問題について言及、地域医療の実状への理解を求めた。しかし、出席した議員の多くは、「マニュアル、ガイドラインなどによるリスクマネージメントが事故対策に有効だとして、本質的なマンパワーの不足にこそ危うい危機感を感じていないようであった。彼らは「医療費の削減」と「医療の質の向上、安全確保」という相

真顔で語る。たとえば国会レベルで、政権与党の自民党は新たな「健康長寿社会」を実現するための健康フロンティア戦略として、平成十七年度から平成二十六年まで今後十年間に、がんの五年生存率を二〇%改善すると公約をぶち上げている。周知の事実としてがんの医療はとみに高度化、高額な先端機器など経費は高騰の一途である。また多大のマンパワーを必要とするため人件費の増額は必至の課題である。もし本気で五年生存率を20%改善といった内容を実現しようというのならそれなりの財政的な保証が最優先の課題ではなからうか。

かつて小児救急のために、四畳半二間に親子四人、十年起居したマンションの姿はもはや私の眼前にない。取り壊された跡地にみどり病院が新築されたについてそれなりの感慨がないわけではないが、そうした追憶に浸る余裕もあらばこそ、地域医療崩壊の危機にはたと腕を組む日々である。かつての小児救急に代わるような地域医療に貢献しようという内容が求めねばと思う心ひとしおだが、一方的な医療費削減など逆風吹きすさぶ情勢の中で、果たして何が可能だろうか。地域の先生方と連携、苦境を打開しようとする病院へと、いよいよ私たちの地域医療の第二幕が開かれようとしている。

危機に立つ地域医療



理事長 額田 勲

診療科目 内科/外科/整形外科
循環器科/消化器科
呼吸器科/リウマチ科
リハビリテーション科
人工透析

●病床数 108床(一般108床うち重急性8床)

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
午後5:00~ 7:30	○	○	○	○	○	△

* 外科の午後診療は、木曜のみ(午後5:00~7:00)です。
* 整形外科の診療は、火曜午前のみです。
▶ 急患は随時受付いたします。(神戸市第2次救急指定病院)

面会時間 平日・土…午後 3:00~午後8:00
日・祝日…午前11:00~午後8:00

公共交通機関をご利用の場合

- JR明石駅・山陽電車明石駅より
 - 神姫バス乗り場
 - (南2) 三木・社、押部谷方面ゆき (約15分)
 - (南3) 西神中央駅方面ゆき (約15分)
 - 変電所前下車
 - 枝吉交差点を西へ (徒歩約5分)
- JR西明石駅より
 - タクシー利用 (約10分)

マイカーをご利用の場合

- 国道175号線枝吉交差点を西へ約150m

《みどり病院の理念》

● 私たちは、地域の人々が健やかに安心して暮らせる医療環境づくりに貢献します。

《みどり病院の基本方針》

- 一般急性期医療を軸に、予防医学から在宅医療までをカバーし、地域の医療ニーズに応えます。
- 患者様の権利を尊重し、十分な説明を行い、安全で良質な医療を提供します。
- 近隣の医療・介護・保健機関と協力し、地域の人々の健康と安心を支える病院をめざします。
- 専門知識の習得や技術の向上に努め、医療レベルの向上に努めます。

アクセスMAP



ホームページもご覧下さい!!

みどり病院のいろんな情報を、ホームページでも公開しています。下記アドレスまでアクセスしてください!

<http://www.midori-hp.or.jp>



みどり病院に入院中の方へのお見舞いメッセージを、Eメールで送ることができます。詳しくは、みどり病院ホームページにアクセスして下さい。

地域連携担当

各病院、施設、診療所の先生方から、当院への入院その他のお問い合わせは、内田 志緒利(外来師長)が担当しております。お気軽にお問い合わせ下さい。

☎ (078) 928-1700
FAX (078) 928-1772



医療法人社団 倫生会

みどり病院

所在地：〒651-2133 神戸市西区枝吉1-16
TEL (078) 928-1700 (代) FAX (078) 928-1772

改築棟のご紹介

2007年の幕開けと同時に、みどり病院もフルオープンいたしました。

前回の創刊号では新築棟のご紹介をしましたが、第2号では、改築棟のご紹介をさせていただきます。

病院玄関を入って正面のエントランスホールには新たに、各階のご案内、病院の理念等を掲げています。

外来ホールを右手に見ながら廊下を抜け、左に曲がると、右手に薬局、その奥にはレントゲン室があります。エレベーター前を通り越した正面は、以前は外来ホール、診察室だった所ですが、この度透析室となりました。新しい透析室は、ベッド数は20床と今までと変わりませんが、広さを十分に取り、ゆつたり

としたスペースに生まれ変わりました。床と壁は淡いピンク色で、部屋全体が明るく、あたたかく、落ち着いた雰囲気になっています。

エレベーターで2階、3階に上がると、左手に病室が7室並んでいます。既存の病室も、天井、壁、床などすべて、全面的に改修しました。病室は4人部屋で、1床あたりの広さを十分にとつてあります。増築棟と同様、ドアと床は落

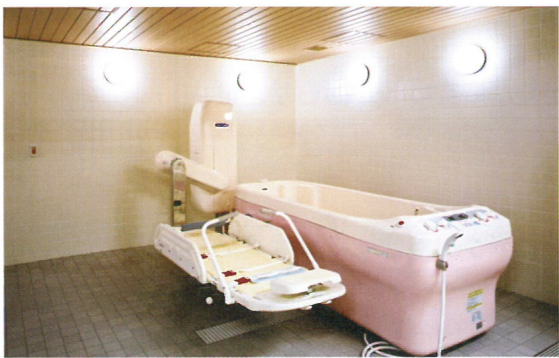
ち着きのある木目調で統一しました。部屋全体に光が差し込み、あたたかい雰囲気が感じられます。



透析室



また各階に洗面、洗濯室、シャワー室、浴室があります。2階の浴室は、車椅子の患者様でもゆつたりと湯舟につかっていたり、設備を備えた、特別浴室を設けています。



特別浴室

4階に上がると左手にリハビリテーション室があります。部屋に入ると、正面一面が窓になっていて、外の光が部屋中に差し込み、広さも十分にあるので開放感にあふれた空間になっています。この空間で、今まで以上に



リハビリテーション室

くつろいだ気分でのリハビリに専念していただくことができます。

一昨年の10月より昨年末まで、患者様や近隣の皆様には、騒音等で大変ご迷惑をお掛けし、申し訳ございませんでした。今後は新しくなった病院で、患者様や地域の皆様のご期待に添えるよう、職員一同、より一層努力して参りますので、宜しくお願い申し上げます。

透析室より

長かった増改築の工事も終わり、晴れて新館の院内でオープンすることが出来ました。

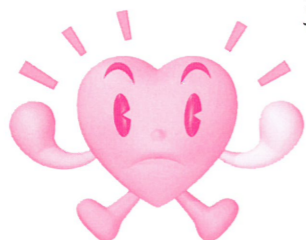
工事期間中は患者様に大変ご迷惑をお掛けしました事をこの場をお借りしお詫び申し上げます。

院内より、外を回っての透析室への移動時には、雨に降られたり寒い思いをした事もありましたが、事故もなくここまで来れたのも患者様のご協力のおかげです。

透析室は院内でも一番最後の引越であり、不便な思いをした分、一番新しい場所でもあります。フロアー全体が広くなり、車椅子での移動がスムーズに出来るようベッド間のスペースも広く設けました。

更衣室前には透析後に昼食を摂って帰られる患者様の為に、カウンターの設置しました。フロアー全体の配色も、暖かい雰囲気が持てるように考慮しました。今後も、清潔で綺麗なまま使用していきたいと思っています。

透析患者様にとって精神的、身体的に何かと制限や拘束を余儀なくされる日常生活を、よりよく過ごす事ができるようにどのようなサポートが行えるかを日々考えながら、スタッフ全員で取り組んでいきたいと思っています。



創刊号のクイズの答え

- ① 酒精
- ▼ アルコール
- ② 苹果酒
- ▼ サイダー
- ③ 氷菓子
- ▼ アイスクリーム